

2017年8月30日

特定非営利活動法人  
地球生物会議 (ALIVE)  
担当者殿

東海大学動物実験委員会  
委員長 秦野 伸二

本年8月16日付けで、本学宛にご依頼のあった追加質問について、以下の通り回答いたします。

<質問：貴大学回答中の「電殺法」とは、以下の北海道大学資料にある、電極プローブを用いた方法（電気ショックで失神後、心臓部へ通電して致死させる）で間違いありませんか？>

<回答>

本学での手法については、対象動物種が異なるため、北海道大学資料に記載された内容（牛・豚）と全く同一の方法ではありません。ご参考までに、本学でのヤギ安楽殺手順は以下の通りです。

1. 麻酔薬（セラクター：キシラジン製剤）を適量（1～1.5cc）筋肉注射する。
2. 鎮静・麻酔状態（横臥、睡眠状態、痛覚反射無し）になることを確認（5～10分）。
3. 電極プローブの一端を肛門内に挿入、他端を口唇に取り付ける。
4. 電源を入れて中枢神経（脳・脊髄）に通電することで心肺停止および脳機能の根本的喪失状態に至らしめる（20～30秒）。
5. 呼吸停止、心停止、瞳孔散大を確認して安楽殺処分完了。

本学で用いている上記の手順は、環境省の「動物の殺処分方法に関する指針」すなわち第3項”殺処分動物の殺処分方法は、化学的又は物理的方法により、できる限り殺処分動物に苦痛を与えない方法を用いて当該動物を意識の喪失状態にし、心機能又は肺機能を非可逆的に停止させる方法によるほか、社会的に容認されている通常の方法によること”に基づいた方法であると考えております。

以上